

幼児期の教育で大切にしたいこと

環境を通して行う教育

- ・ 幼児期にふさわしい生活の展開
- ・ 遊びを通しての総合的な指導
- ・ 一人一人の発達の特性に応じた指導



エージェンシーを発揮して、自ら発達に必要なものを獲得しようとする姿(イメージ図)

達成感や充実感、自信をもつ

できたよ!
またやってみよう。

試行錯誤する

もっと
こうしたいな。

見通しをもつ

こうしてみよう!

思いや願いをもつ

やってみよう!

興味や関心をもって
環境に関わる

なんだろう?
おもしろそう!

幼児は、興味や関心をもって環境に関わる中で、「やってみよう！」等の思いや願いをもちます。友達や教師が行っている様子を見て、「あのようになればよいのか」と見通しをもった幼児は、試行錯誤を繰り返すうちに、友達や教師の動きをモデルにしてまねたり、考えたりしながら、環境へのふさわしい関わり方に気づき、身に付けていきます。こうした環境との関わりを通して、幼児は自ら発達に必要なものを獲得し、自らの世界を広げていきます。

このような姿が現れるよう、次のような援助を行いましょう。



〈教師の援助〉

詳細はこちら

環境の構成の工夫

興味・関心が高まり、思いや願いが生まれるような環境を構成する。

一人一人の発達に応じた援助

見守る、一緒に悩む、助言する、手伝う等、必要な援助を判断して行う。

思いや願いに寄り添う姿勢

思いや願いを受け止め、共感したり、一緒に考えたりする。

自己肯定感を高められる関わり方

よさや可能性を認める言葉かけを行ったり、安心感を与える表情やまなざしで接したりする。

幼保こ小の円滑な連携・接続に向けて

～幼児期の教育における学びや育ちを

小学校以降につなぐために～

〈1〉基盤づくり

- 接続窓口、幼保こ小接続担当者の明確化
- 管理職及び担任同士の情報交換等による関係づくり
- 幼児と小学校児童との交流活動の実施

〈2〉相互理解

- 互いの保育・授業参観
- 幼児教育施設と小学校の教職員が互いの保育・教育の内容や方法について理解し合う合同研修会の実施

〈3〉カリキュラムの開発・実施

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(いわゆる「10の姿」)」を念頭に置いた(踏まえた)教育課程の編成・実施

※ 直接的に「10の姿」を反映するものではないことに留意しましょう。

- 地域の幼児教育施設と小学校の「期待する子供像」の検討と共有
- 架け橋期のカリキュラム(育みたい資質・能力や発達の様相、ねらい、環境の構成等を可視化したもの)の作成
- 架け橋期のカリキュラムによる保育・授業実践

〈4〉カリキュラムの評価・改善

- 次年度に向けた架け橋期のカリキュラムの評価・改善

就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン
文部科学省：幼保小の架け橋プログラム
文部科学省：遊びを通じた学び